

見て、知って、誰かに話したくなるコミュニティ情報紙



FUTABANOWA

ふたばのわ

Vol.147
2026.1.15



ふたばのわ スマイルフォト

笑顔ひろがる 新たな一年 P.2・P.3

再開から10年

初發神社 しめ縄づくり P.4

今月の表紙

今月の表紙は、「相馬妙見宮 初發神社」へ奉納されたしめ縄です。参加者が力を合わせ、一本一本を丁寧に編み上げました。

その作業の様子はP.4にて掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ふたばのわ スマイルフォト

笑顔ひろがる 新たな一年

明けましておめでとうございます。

2026年第1号目では、昨年撮影させていただいた
笑顔の写真「スマイルフォト」をご紹介します。

本号でご紹介した笑顔が、皆さんの心に温もりを届け
一年が穏やかに続くことを願っております。





昨年は取材へご協力くださり、ありがとうございました。
 本年も双葉町復興支援員による取材へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

再開から10年 初發神社 しめ縄づくり



12月4日（木）、双葉町内で「相馬妙見宮初發神社」へ奉納するためのしめ縄づくりが行われました。当日は、神社を支える地域の方々13人が集まり、力を合わせ作業を進めました。しめ縄づくりは、新年を迎えるための日本の大切な伝統行事です。初發神社でも長く受け継がれてきましたが、東日本大震災の影響で一時中断していました。2015年に再開し、今年で10年の節目を迎えました。

参加者同士の会話が弾む和やかな雰囲気なのか、藁を編む手には熱がこもり、「こっちを持てほしい」「もう少し締めよう」と声を掛け合いながら、縄を編んでいきました。ねじりがうまく噛み合わず、やり直す場面もありましたが、そのたびに手順を確かめ合い、丁寧な形を整えていきました。協力して作り上げたしめ縄は、初發神社へ奉納されました。



氏子総代長を務める横山久勝さんは、地域の伝統を未来へつなぐため、長年しめ縄づくりの中心を担ってきました。

「平日にもかかわらず10人以上が集まってくさる、こんなにも多くの方が参加してくださると思っていなかったの、大変ありがたく感じています。しめ縄づくりは年に二度の作業なので、毎回やり方を思い出しながら進めています。私は震災前からこの作業に携わり、先代の総代長に厳しく教わりながら技術を身につけてきました。神社を支える地域の方々には、『自分たちの手で編みたい』という強い想いがあります。その気持ちを大切にしながら、受け継いできた技を次の世代へつないでいきたいです」

その言葉からは、これからも地域の伝統を守り続けようとする強い意志が伝わってきました。

新しい一年への願いが込められたしめ縄が社殿に掛けられると、境内には清らかな空気が広がりました。

町内の放射線モニタリング情報

町内の放射線モニタリング情報は右のQRコードよりご確認ください。
測定値は随時更新中です。

詳細はこちらから
ご覧ください。➡

